

5 がっひかりごう

平成 30 年 5 月 1 日 輝 保 育 園

緑が目に見えるさわやかな季節になりました。新年度が始まって一か月が過ぎました。子ども達は、緊張も解け、徐々にありのままの姿を見せるようになりました。新入園児さんは、友達や保育士のいる生活に、少しずつ居心地の良さを感じ始め、元気に登園する姿が見られるようになりました。しかし、不安を感じる部分が残っている姿も見られます。連休明けには、継続児さんにも登園を渋ることも予想されます。ご家庭と連絡を密にとりながら、一人ひとりを温かく見守りいろいろな気持ちを受け止めながら、安心して楽しく過ごせる園生活に繋げていきたいと考えています。

【【 保育参観 】】

過日、お知らせしましたように、「ひまわり組」から順次保育参観を行います。

午前中は子ども達の活動を見て頂き、給食試食、午後からは、個人面談を行います。

ご家庭と園でのお子さんの姿を通して、育ちの確認を中心にお話したいと考えています。

面談の日程調整などもありますので、1週間以上前に参加日をお知らせください。

★ お知らせ ★

今年度の行事予定表でご案内していましたが「夏祭り」の予定が変更となりました。

25 日 (土) ⇒⇒⇒ 18 日 (土)



= 5 月の行事予定 =

- 1 日 (火) 遠足 (3、4、5 才児)
- 10 日 (木) 避難訓練
- 24 日 (木) 身体測定、お誕生会
- 24 日 (木) } 尿、ぎょう虫卵検査
- 25 日 (金) }



= ナース・レポート =

「大型連休で感染拡大の恐れ」

大型連休を前に、厚生省が感染予防を呼びかけている。

今年は特に海外から訪れた人が感染源となっており、はしか (麻疹) にかかる人が沖縄を中心に急増。

人の行き来が増える連休に感染が広がる恐れがあり、専門家は適切なワクチン接種を勧めている。

日本では 2016 年に 1 回だった定期接種を 2 回に増やした。

その後、定期接種が 1 回だった世代の一部にも追加接種をして、1990 年 4 月 2 日以降に生まれた人の多くは免疫がある。

それ以前は、はしかに感染していなければ免疫が十分でない恐れが強い。

幼少期にかかったことがある人も、記憶に頼らず抗体検査で確かめることが大切だ。

4/22 朝日新聞デジタル版より抜粋

はしかは空気感染で感染力は非常に強く、免疫がない場合はほぼ 100% の人が感染し、39℃ 以上の高熱や発疹がでて、子どもが感染すると脳炎などの合併症を起こすこともあります。

はしかには予防接種が有効です。

しかし、前記にあったように過去の状況から、30 代は定期接種が 1 回にとどまっているため、免疫力が低いとされています。

はしかは子どもだけの病気ではありません。

保護者の方も注意しましょう。

《《《 お願い 》》》

1. クリアケースの中と、お便り帳を毎日確認してください。
2. 投薬依頼がある場合は、必ず職員に手渡しをお願いします。
3. 持ち物や衣類には名前の記入をお願いします。名前が薄くなっていないか、もう一度確認して下さい。
4. 夜更かしをさせず、早寝・早起をし、しっかり朝食を摂りましょう。
5. 毎日入浴させ、清潔にしましょう。

☆☆ コミュニケーション ☆☆

～ 大人の関わり方 (ほめ方) ③ ～

2. ほめ上手な大人であるために

ポイント 3 ほめる時は、どんなところが良かったのか具体的にほめる

例えば、運動会での子どもの様子を見て、「よくがんばったね！」とほめる方法もありますが、親はほめたつもりでも、子どもの側からすると漠然としていて、何が、どう良かったのかよくわからず、ほめられたと思わないケースにもなるようです。

ほめる時には、「ダンスの時の表情がとても素敵だったよ！」のように具体的にほめた方が子どもの心に響きます。

ポイント 4 タイミングを逃さずにほめる

子どもの言動をほめる時は、できるだけそ場でほめることが大切です。

これは、叱る時と同様にタイミングを逃す効果が大きく違ってきます。

タイミング良くほめることが重要です。

ポイント 5 他の子どもと比較してほめることはできだけ控える

「～さんより上手にできたね！」のように競争心を刺激したほめ方すると、子どもは喜び頑張ります。

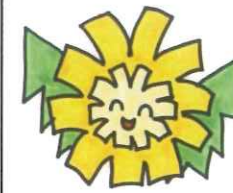
しかし、他の子どもと比較を過度にやると、順位こだわった頑張りになり、必ずしも自尊感情や意欲そのものの向上にはつながらないことがあります。

当然ながら、「～さんよりだめだったね」などというのは好ましくありません。

「教育力向上福岡県民運動ホームページ」より抜粋

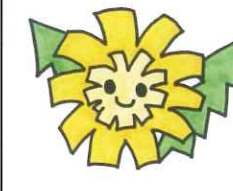
こ っ ち ゃ ん の よ う じ

たんぼぼぐみ 0 才児



新緑の季節になりました。入園してあっという間に 1 ヶ月が過ぎました。お母さんと離れると寂しくなり涙が流れたり、ミルクが飲めなかったり、「抱っこして」と涙ながらに訴えたりと、泣く事も多かった 4 月の始めでしたが、徐々に笑顔が見られお喋りする姿に安心の様子を感じ取れるようになりました。先日、初めてたんぼぼ園庭に出たお友だちは、戸惑いの表情を見せながらも徐々にハイハイやよちよち歩きで思い思いの遊びを楽しみました。遊具につかまり立ちする子、フェンスに沿って伝い歩きをする子、滑り台を登ろうとするなど様々な行動と表情が見られました。そんな時でも必ず保育士を探しています。これから経験する楽しい事も悲しい事も全てを共にし、一番に共感できる保育を続け、これからも愛着を育てていきたいと思っています。

たんぼぼぐみ 1 才児



新年度になり、1 ヶ月が過ぎました。入園当初は、泣きながら過ごしていた新入園児の子たちも、少しずつ保育園での生活に慣れてきました。登園時は、おうちの方と離れるのがつらく、泣いてしまう事もありましたが、抱っこして少し落ち着くと、自分から降り、玩具に手を伸ばし遊び始めています。進級児は、新しい担任と一緒に生活したり、好きな遊びをしたりして、楽しさを共有することで、少しずつ新しい環境に慣れてきています。しかし、園で頑張っている分、家庭で夜泣きがあったり、機嫌が悪かったりすることもあるようです。少しずつ慣れてくれると考えています。天気の良い日は、たんぼぼ組用の園庭で遊んでいます。滑り台に自分で登れるようになったり、保育者と追いかけて遊んだり、体をたくさん動かして遊んでいます。

すみれぐみ 2 才児



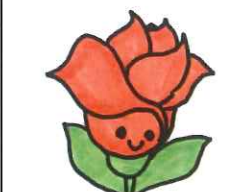
新入園児も、少しずつ保育園の生活に慣れ、泣かずに過ごせるようになってきています。進級児も、部屋や保育士が変わり、初めは少し戸惑う子もいましたが、好きな遊びを一緒に楽しむ中で、安心してすごせるようになってきています。先日、運動遊びをしました。ある女の子が跳びたい気持ちはあるものの、なかなかジャンプができずにいました。すると、一人の男の子がやってきて手を差し出します。そして「する？」と聞いています。2人で手を繋ぎ、「せーの！」と跳ぼうとしますが、女の子はあと一步の勇気がでず跳べませんでした。でも、女の子の表情はとても嬉しそうでした。小さな子が、友だちの思いに寄り添う姿に嬉しくなりました。まだ今は一人遊びが中心ですが、友だちと「一緒に遊ぶ」という経験をたくさんつくっていきます。

ちゅうりっぷぐみ 3 才児



進級し、初めて尽くしの毎日を過ごすなかで、安心して生活できること、好きな遊びや場所を見つける事を目標に過ごした 4 月でした。新しい環境に慣れようと、精一杯頑張る子ども達の気持ちがとても伝わってきました。最近では、朝のご用意や、お弁当の準備片づけ等、生活の大きな流れを少しだけ見通せるようになってきています。いよいよ、今まで積み重ねてきた力の全てを発揮し、子ども自身が自分で行動を選択していく段階の始まりです。今月から、3 才児期の目標である身辺自立の確立に向けて本格的に取り組めます。まずは、夏のプール活動に向け、2 ヶ月かけて「衣服の着脱 (衣服の前後を自分で見極める)」を中心に行います。ご家庭でも、子どもさんの着脱の状況を再確認して頂き、自信を持って頑張れるよう温かい応援をお願い致します。

ばらぐみ 4 才児



年中児クラスの目標「心を律する」に向かい、現在 2 つの柱を軸に取り組んでいます。1 つ目は、年少児さんのお世話係として、身だしなみを整えてあげる事や、給食時のお手本になる事です。悪戦苦闘しながらも、小さい子に寄り添う優しさを見せてくれています。2 つ目は、ルールのある遊びを自分達で進める事です。年少児クラスでは保育士中心となって進めてきましたが、人数分けや役割分担など含め、子ども達で決めます。先日、ドッジボールでのチーム決めの際、外野決めが難航。リードする子、自分の気持ちを主張する子、追いかけてこを始める子とバラバラでしたが、最終的には、譲ったり、順番を決めたりする事で何とか解決しました。2 つの柱を軸に、今後、どのようなカラーを持ったクラスを子ども達が作っていくのか楽しみです。

ひまわりぐみ 5 才児



進級して 1 ヶ月が経ちました。当番活動にも意欲的に取り組み、年長児としての自覚が出てきています。布団敷き、お箸配り、お茶注ぎ、挨拶、掃除の当番活動を 1 週間交代で取り組みます。同じグループの友達と協力し合い、時にぶつかり合いながら夫々の役割を果たそうと頑張っています。また年下の子をお世話もしています。保育者から頼まれたことだけでなく、鼻が出ていとティッシュで拭いてあげたり、転んで泣いていたら立たせて涙を拭いてあげたりと自然と優しく接することができ、思いやりの心が育っています。その反面、落ち着きのない姿も見られ、約束事を分かっているにも関わらず、守れないことがあります。怪我や事故にも繋がりがかねないことなので、子ども達と繰り返し話し合い、約束を守って楽しく安全に園生活を送っていきけるようしていきます。